

令和7年度 COPD集団スクリーニング 質問票の集計結果について



江戸川区医師会医療検査センター
公式キャラクター えどしかけんた

慢性閉塞性肺疾患(COPD)について

1 慢性閉塞性肺疾患 (COPD : chronic obstructive pulmonary disease) とは
長期間の喫煙や有害物質を長年吸い込むことなどが原因で肺の空気の通りが悪くなり、息切れ、せき、たんなどの症状を起こす疾患

- ・ COPD患者数の推計：500万人
- ・ COPDによる死亡者数：年間約16,000人前後
- ・ 治療中のCOPD患者数：約20万人（厚生労働省の患者調査）
→適切な治療を受けていない患者が多い

2 今回、集団スクリーニングを実施した目的

「健康日本21(第3次)」でも、COPDによる死亡率を減少させる目標が設定されている。COPDのリスクを抱えている人を把握するために、医療機関で健診を受診した区民を対象に調査を実施した。

スクリーニング調査について

1	質問票	COPD-PS
2	実施期間	令和7年8月1日～ 11月8日
3	対象	国保健診・長寿健 診を受診された方
4	年齢	65歳以上
5	回答数	24,821件 ※
6	回答率	37.0% (健診受診者：67,007人)

※回答者の性別・年齢の内訳

	60～69歳	70歳～	不明	計
男性	1,468	7,307	44	8,819
女性	2,163	11,818	65	14,046
不明	430	1,411	115	1,956
合計	4,061	20,536	224	24,821

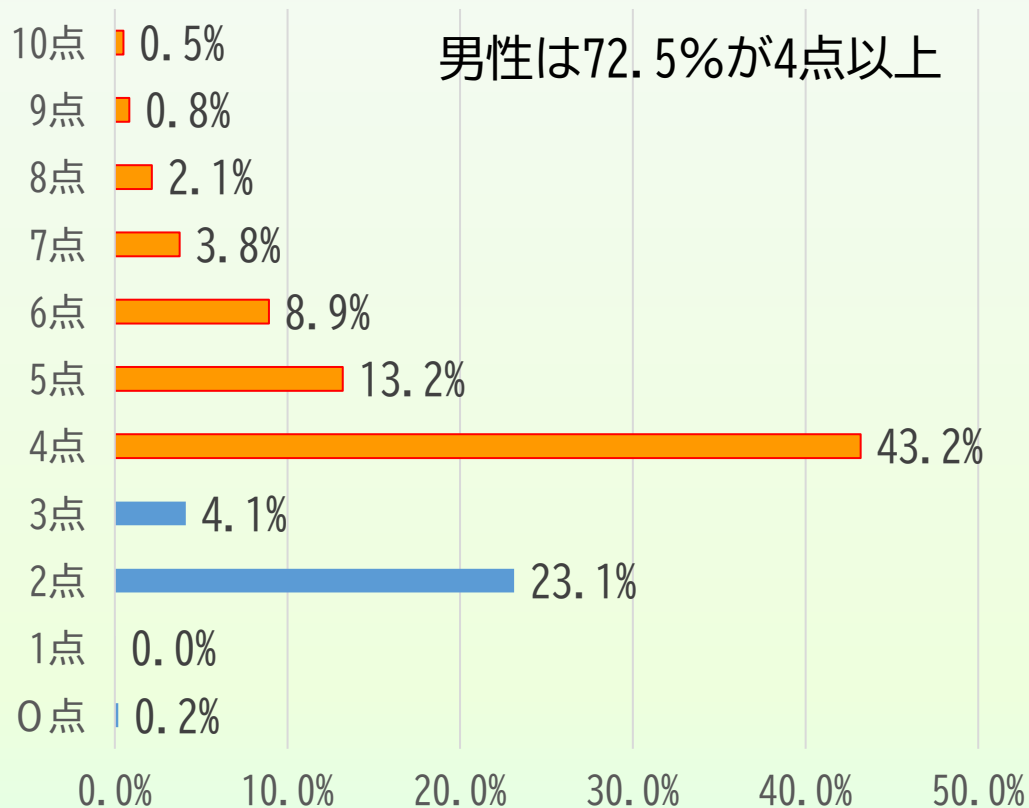
【参考】久山町研究 COPDスクリーニング結果

- 実施時期：2012年の久山町健診
- 対象者：2,357人
- 方法：スパイロメトリーによる閉塞性障害の有無とCOPD-PSの回答を統計学的に解析
- 結果：カットオフ値を4点にすると
感度が67.1%、特異性72.9%
→陽性者 **20%~25%**

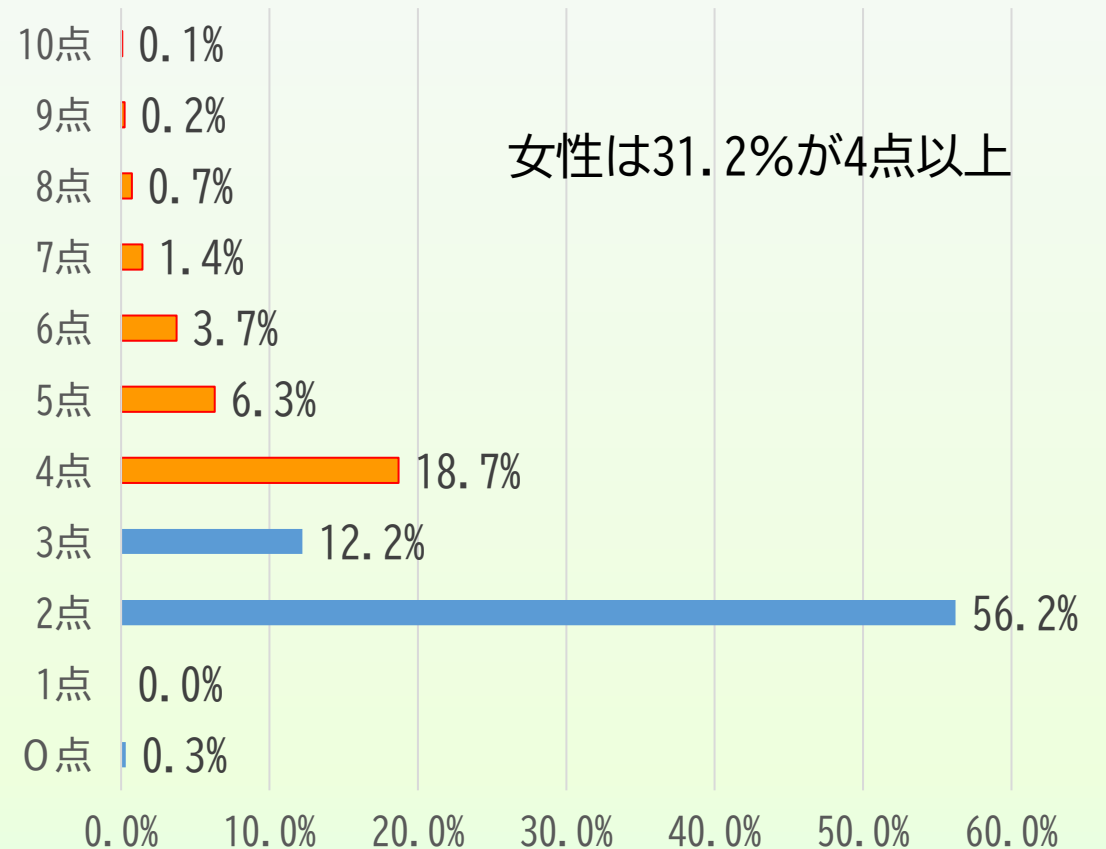
引用：日本における慢性閉塞性肺疾患の疫学：久山町研究の知見
松元 幸一郎 2019年3月25日 福岡医学会

質問表の点数合計内訳 男女別 ※4点以上がCOPDの疑い

男性



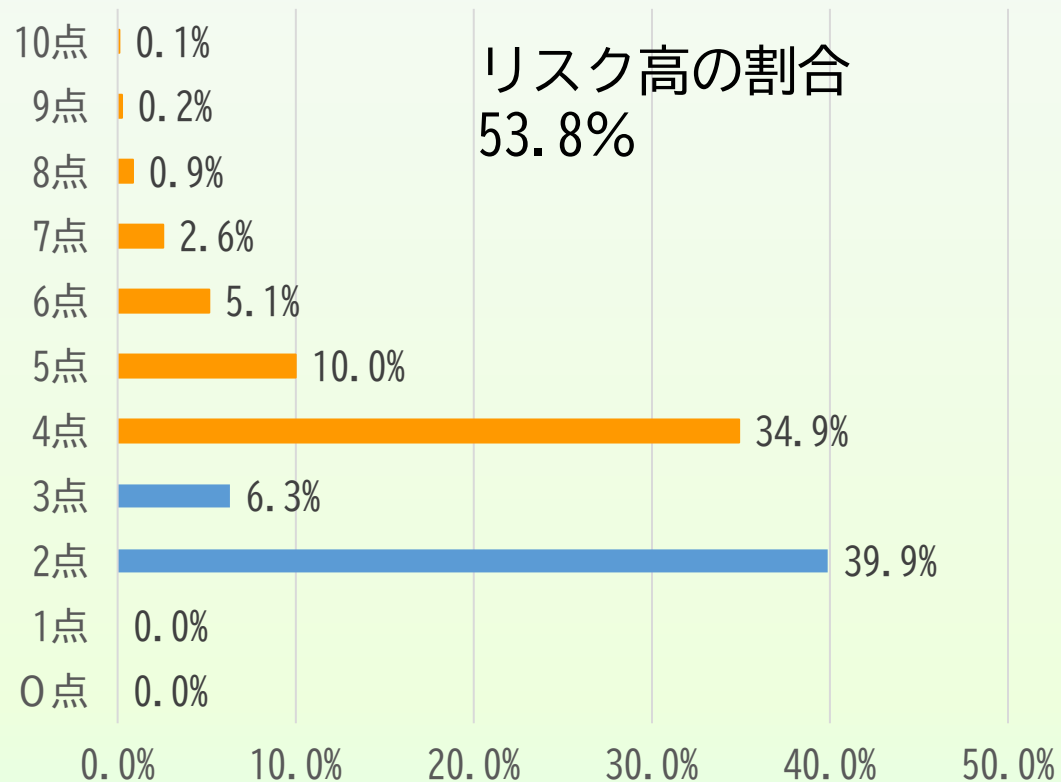
女性



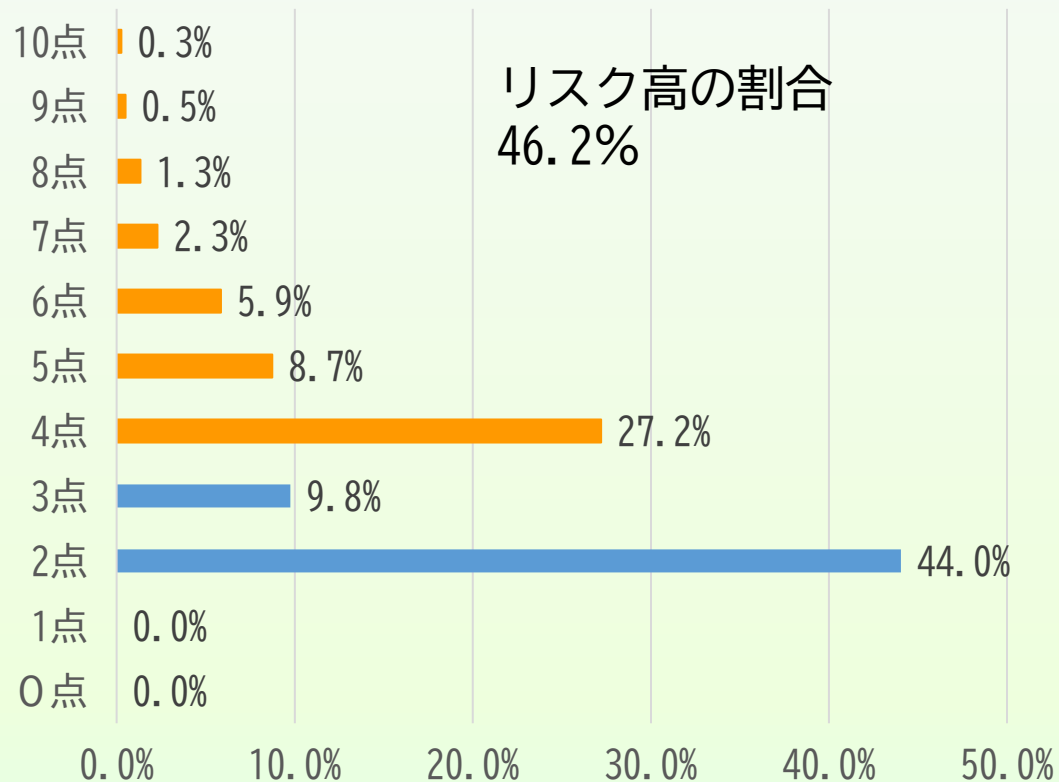
- 男性が女性の**2.3倍** COPDのリスク割合が高い
- COPDリスクの割合が、男女ともに25%を超えている

質問表の点数合計の内訳 年令別 ※4点以上がCOPDの疑い

60～69歳



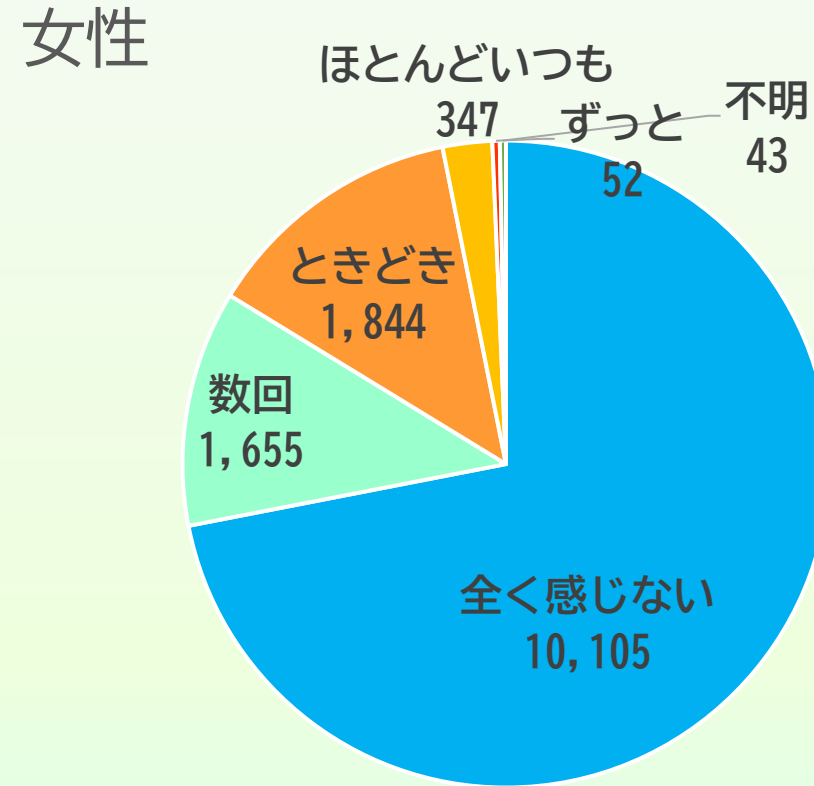
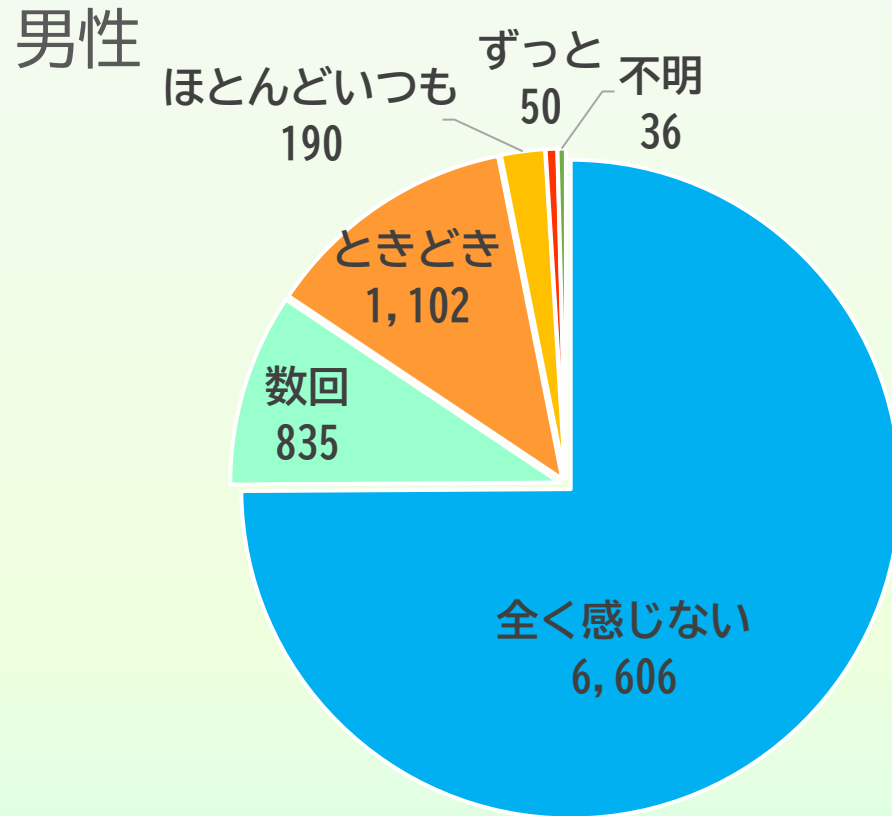
70歳以上



- ・60～69歳のグループが70歳以上のグループよりCOPDのリスク割合が高い。
- ・リスク割合が、どちらのグループも25%を超えている。

各質問の回答

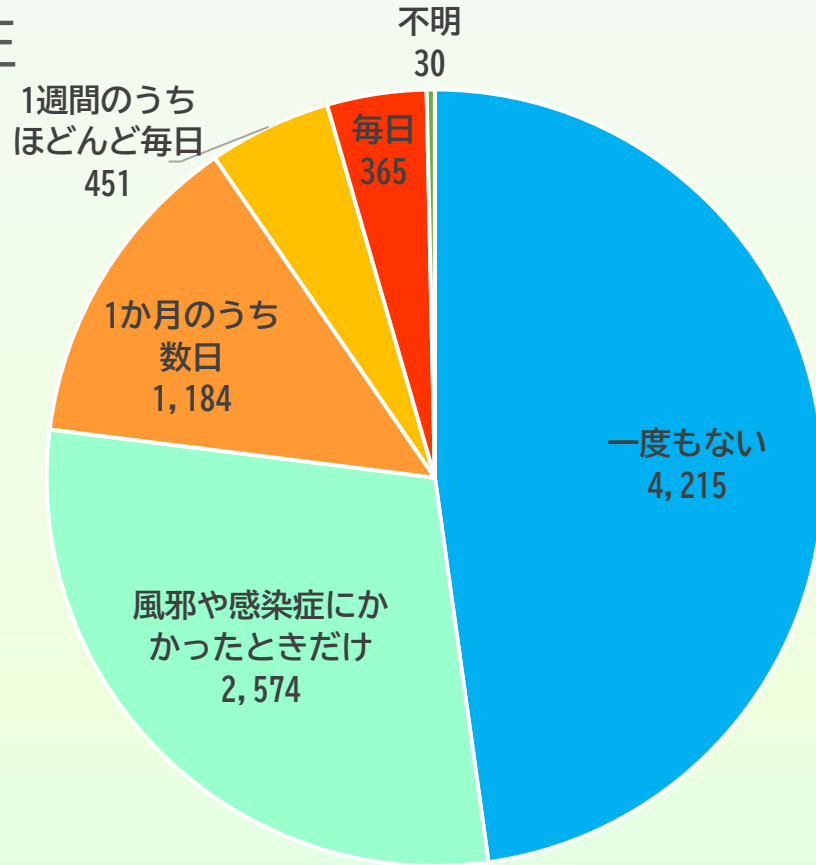
1 過去4週間に、どのくらい頻繁に息切れを感じましたか。



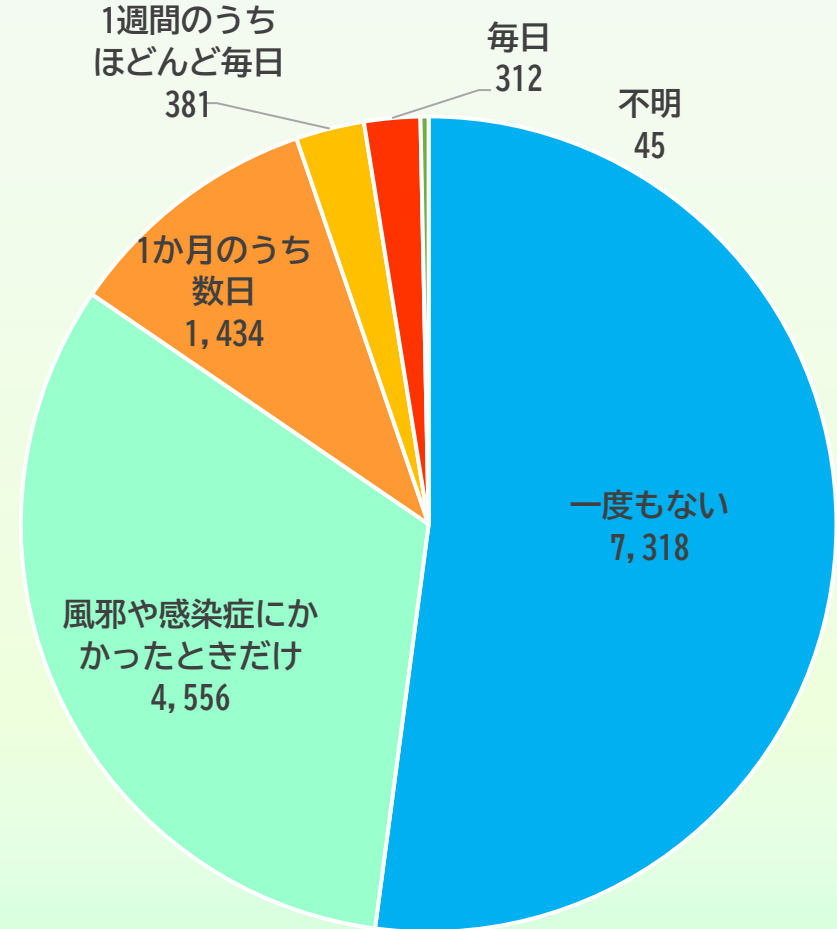
女性の方が、男性よりリスク割合がやや高い。

2 咳をしたとき、粘液や痰などが出たことが、 これまでにありますか？

男性

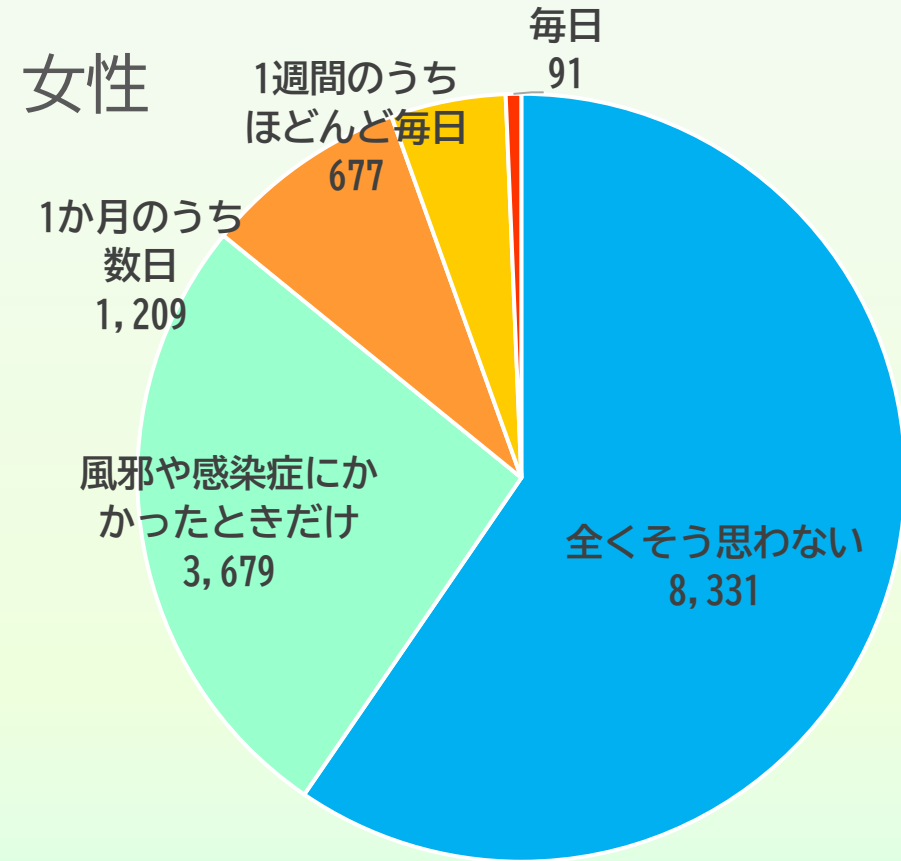
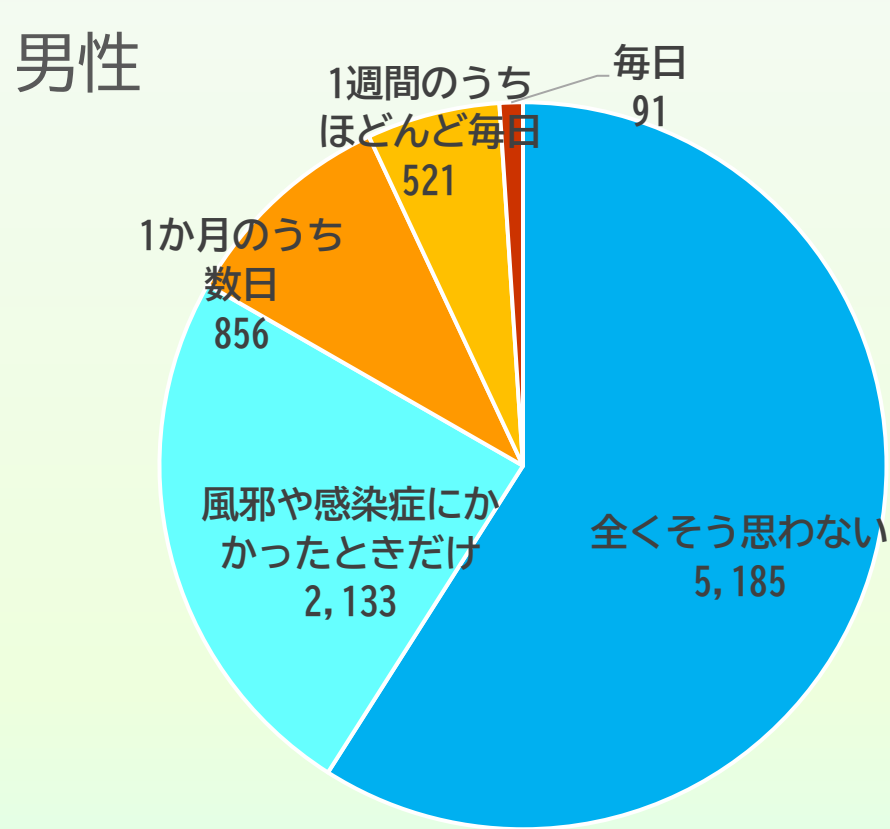


女性



男性の方が、女性よりリスク割合が高い。

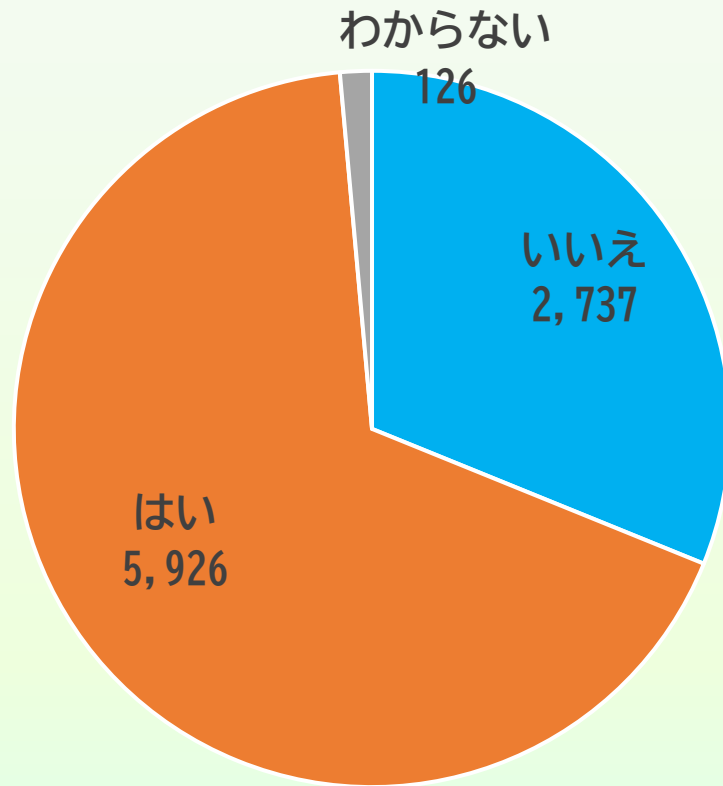
3 過去12か月のご自身に最も当てはまる回答を選んでください。呼吸に問題があるため、以前に比べて活動しなくなりました。



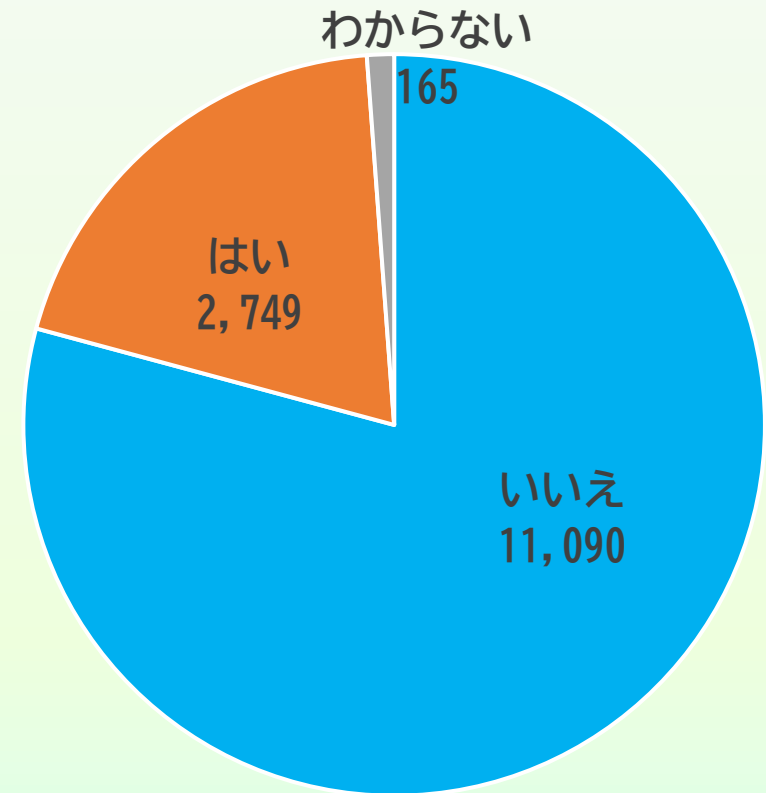
男性の方が、女性よりリスク割合が高い。

4 これまでの人生の中で、たばこを少なくとも100本以上吸いましたか。

男性



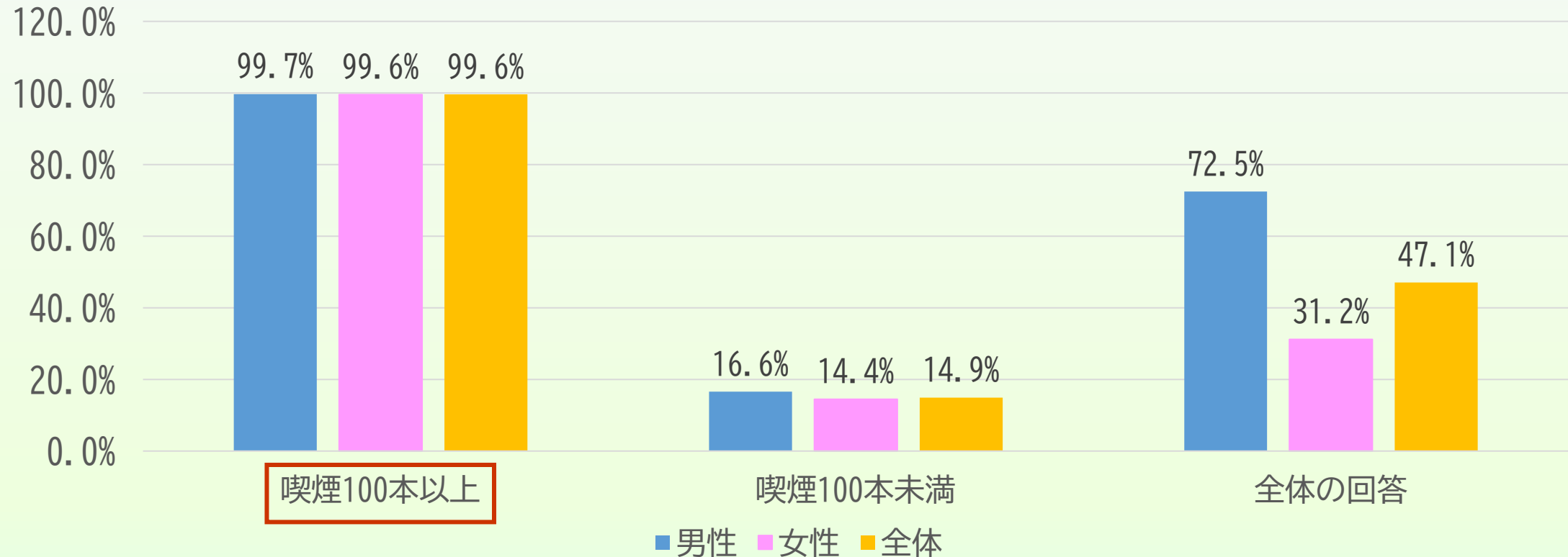
女性



男性の方が、女性よりリスク割合が圧倒的に高い。

喫煙の有無とリスクとの関係 ①

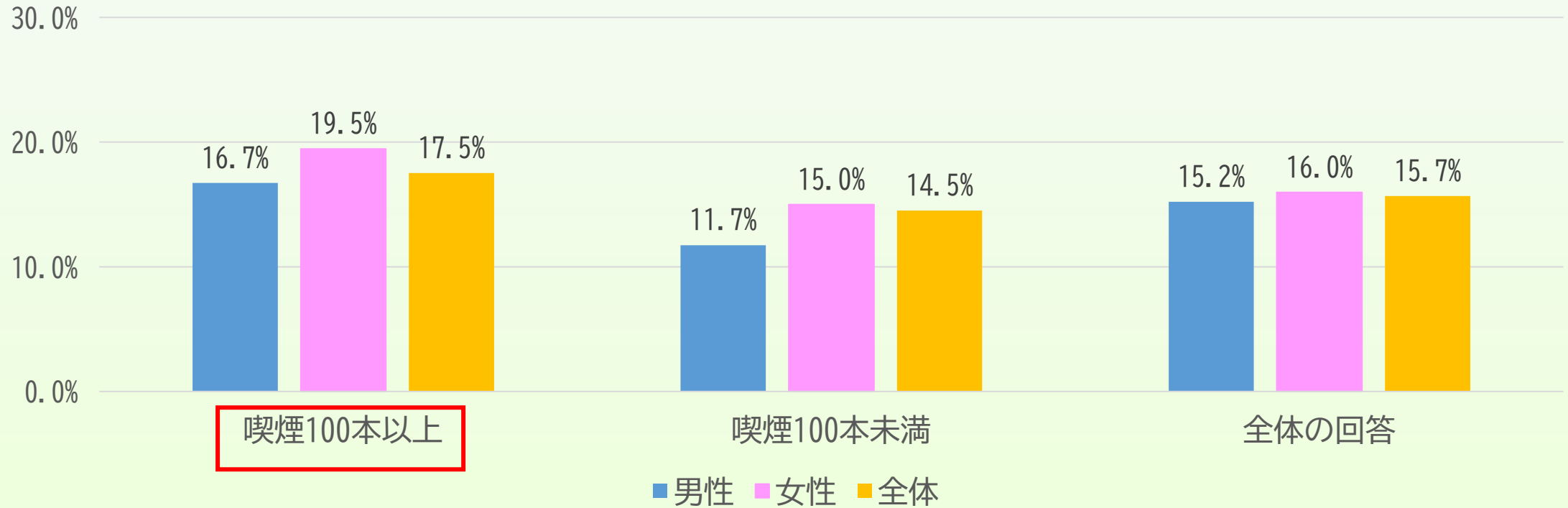
質問の合計が4点以上の割合



- 性別にかかわらず、喫煙者のほとんどが4点以上
- 喫煙歴のないグループは、男性の方がややリスクが高い

喫煙の有無とリスクとの関係 ②

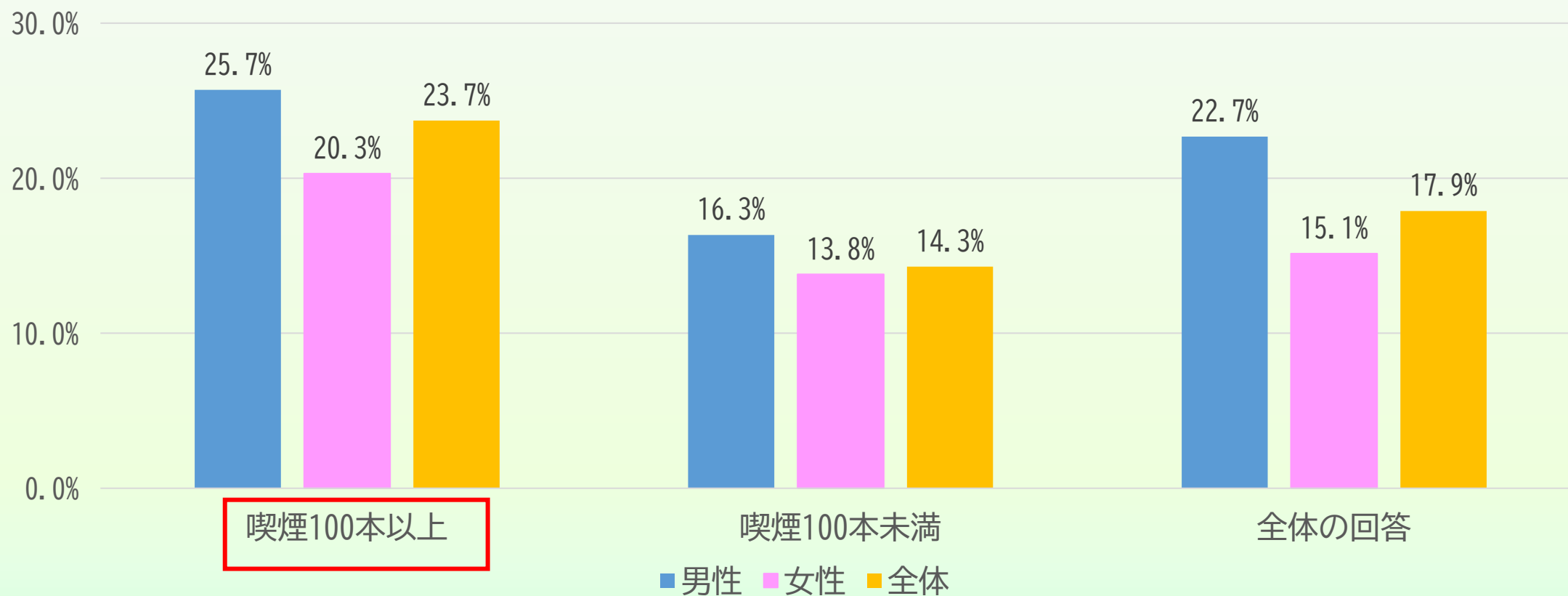
「過去4週間に、どのくらい頻繁に息切れを感じましたか。」



- ・ 喫煙歴があるグループの方が息切れを感じる割合は高い。
- ・ 性別では、女性の方が息切れを感じる割合が高い。

喫煙の有無とリスクとの関係 ③

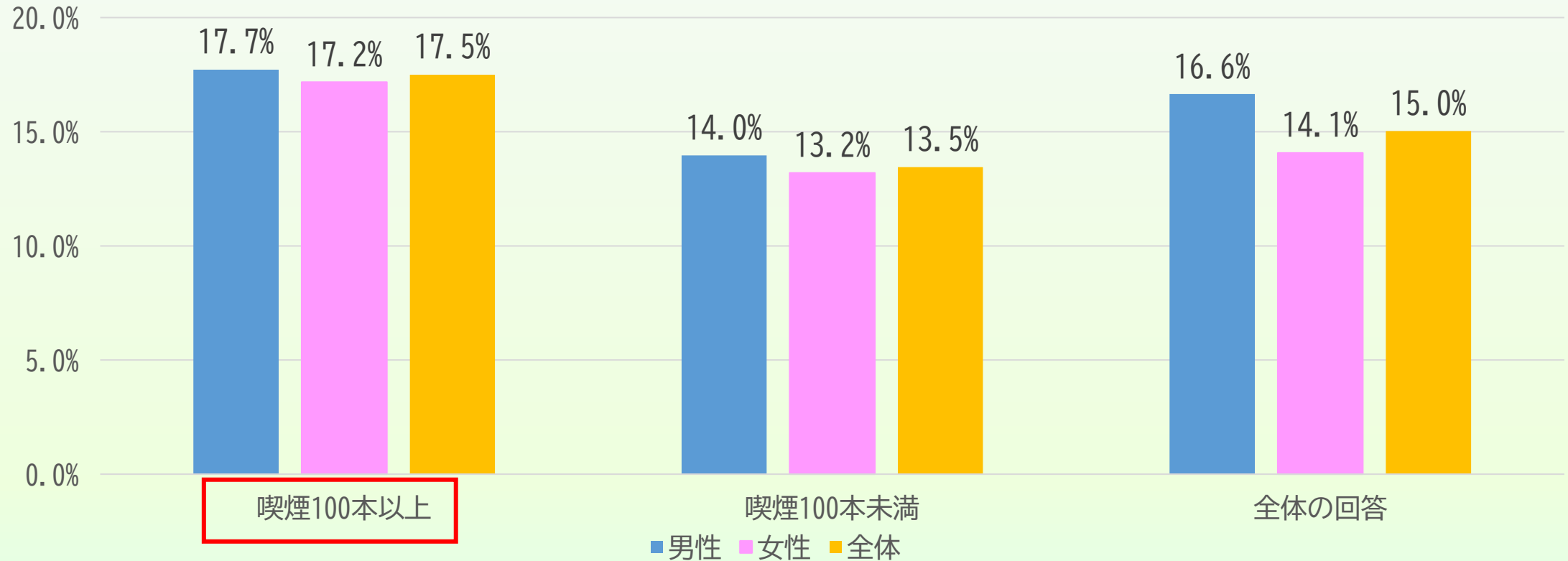
「咳をしたとき、粘液や痰などが出たことが、これまでにありますか？」



男性のリスク割合が、女性よりも高い。

喫煙の有無とリスクとの関係 ④

「過去12か月、呼吸に問題があるため、以前に比べて活動しなくなった。」



- ・喫煙者のグループの方がリスク割合が高く、性別に関わらず17%以上が活動を低下させている。
- ・男性の方が、どのグループについても「活動しなくなった」と回答する割合が高い

まとめ

- 江戸川区民のCOPDリスクが高い割合は、久山町の結果よりもかなり高い。
- 喫煙ありの割合は、圧倒的に男性が多い。
- 喫煙ありの受診者は性別に関係なくCOPDのリスクが高い。
→喫煙ありの人には精査が必要？
- 喫煙なしでも一定割合が COPDの疑いがある結果となっている。
→受動喫煙の状況や別途詳細なスクリーニングが必要？
- 禁煙支援は COPD予防の最も効果的な介入手段のため、積極的な取り組みが必要

謝辞

健診期間の大変お忙しい時期に、調査票の収集をしていただいた
協力医療機関の先生方、
24,000件以上の大量の入力を通常業務の合間を縫って、入力し
ていただいた検査センターの皆さま

ご協力いただき、本当にありがとうございました。

